

令和7年度下水道作文コンクール

# 入賞作品集



京 都 府

## 令和7年度 下水道作文コンクール 入賞者一覧 (京都府知事表彰)

※応募者・入賞者はすべて4年生  
※五十音順、敬称略

賞	氏名	タイトル	学校名	ページ
最優秀	あしはら みく 葦原 実空	浄化センターってすごい	長岡京市立長岡第六小学校	1
優秀	のがみ しほ 野上 志帆	水のために	長岡京市立長岡第六小学校	2
優秀	ふじた まお 藤田 真央	水と地球の未来	長岡京市立長岡第六小学校	3
優秀	ほりお しゅんすけ 堀尾 駿介	くらしをささえる浄化センター	長岡京市立長岡第六小学校	4
佳作	いとう みか 伊藤 実香	二手に分かれた、水の先	長岡京市立長岡第六小学校	5
佳作	うえつき あおい 植月 仰	美しい自然を守るために	長岡京市立長岡第六小学校	6
佳作	おか いちか 岡 初華	洛西浄化センターってめっちゃすごい	向日市立向陽小学校	7
佳作	おもて れいか 表 澪花	洛西浄化センターに行って	向日市立向陽小学校	8

※掲載した作品は、すべて提出いただいた原稿の表現のまま活字化したものです。

## 浄化センターってすごい

長岡市立長岡第六小学校

四年

葦原 実空

みなさんは、わたしたちが使った後の水がどうなるか知つてありますか。わたしたちが使つた水は、洛西浄化センターへ行き、きれいになつて桂川に流されます。

わたしは、洛西浄化センターに見学へ行きました。そこで汚れた水がきれいになる工ついを学びました。最初に流れてきた水は、茶色くて鼻をふさぎたくなるぐらい大きいにおいの水でした。その様子を見てわたしは、この水が本当にきれいになるのかなと思いました。見学が進むにつれてび生物を水の中に入れる生物反のうそうでは、よごれがふえているように見えて本当にきれるのかなと思いまだうたがつてきました。最後には、いつもわたしたちがみている水と同じくらいきれいになつていたのでびつくりしました。

わたしが1番すごいなと思ったのは、24時間365日休まず浄化センターが動いていることです。それを知った時、最初は、あまりきょうみがわきませんでした。しかし、よく考えてみるとわたしたちは、水を使う時間が決まっていなくて、様々な時間に、トイレにいつたり、お風呂にはいつたり、手を洗つたり、ごはんをつくつたり、食器を洗つたり、毎日いろんなタイミングで水を使っています。その使つたお水全ぶが下水かんを通つて浄化センターに集められます。だから浄化センターが止まつてしまふと、汚れた水がきれいにしよ理されないので、大変なことになるんじやないかと思いました。

わたしは、もし浄化センターがなかつたらと想ぞうしてみま

した。浄化センターがなくて下水をしよ理できなかつたら、よごれた水がながれこむきたないどぶやみぞができて町がきたなくなります。水洗トイレが使えません。海や川がよごれます。そうすると魚が食べられなくなります。想ぞうしたくありません。浄化センターが毎日動いていてよごれた水をきれいにしてくれてているのは、本当にすごいことなんだとあらためて思いました。見学をして、あんなにきたない水がきれいになることにとてもおどろきました。洛西浄化センターの人たちが、毎日がんばつてくれるおかげで、わたしたちは、安心してくらすことができて、いるんだと分かりました。これからは、むだにゴミや油を流さないよう気をつけて、浄化センターがきちんと働けるようにした

水のために

長岡京市立長岡第六小学校

四年

野上 志帆

みなさんは、毎日かかせない水を使つたあと、どこにいつてどのようにしてきれいにしていると思いますか。私は、洛西浄化センターへ見学にいつて学んできました。

まず、家庭や、学校などからよごれた水が洛西浄化センターへ行き、さいしょに、大きいごみをとり、そのあとに、つよいにおいをとります。とても小さいごみなどをび生物にたべてもらいます。その時、人間と同じで空気がないと生きていけないのでび生物にも空気を入れてあげます。

その次に、きたない水を、えきたいの中のまじり物が、そこにしづみ、さらにきれいにします。さいごに最終ちんでん池から送られた水を、しようどくして川にもどすというかたちで、水をきれいにしています。

わたしは水をどうやつてきれいになるのかを見学してこう思いました。水は、かんたんによごれるけど、きれいにするにはとても時間がかかる。だから、大切に使いたいと思いました。そのため、わたしはこういう五つの使い方をします。

まず一つ目は、おふろを入り終わつたら、そのままながすのではなくて、せんたくをする時にその水を再利用をしたら水を大切につかえます。

二つ目は、おさらをあらう時のことです。おさらをあらうことは大切です。が、せんざいの使いすぎには注意です。なぜならたくさんつかいすぎても、水が「より」よごれるだけだからです。三つ目は、せつけんをつかう時のことです。せつけんをつか

う時、つかいすぎていませんか、そのことも水を「より」よごしてしまうげんいんです。せつけんを使う時は、一プツシユから二プツシユていどでよごれはとれます。

そして四つ目は、おふろで体をあらう時です。シャンプー、コンディショナー、ボディーソープをつかいすぎないようにいしきしてください。シャンプーなどは、つかいすぎても水をよごすだけなのでつかう量だけつかうと良いと思います。

五つ目は、のみのこしのことです。のみのこした物は、しかたなくシンクに流します。でもそののみものをのこさずにこまめにのんだり、つかう量だけつくれば、のこさずに水を大切にできます。

この五つを守れば水をあまりよごすことなく大切につかえます。そのことで水を大切につかつたぶん水をきれいにしやすくすることができます。この五つをこれから目標にしてがんばりたいです。

## 水と地球の未来

長岡市立長岡第六小学校

四年

藤田 真央

私は、学校のみんなとらくさいじょうかセンターに行きました。行く前に、先生からどんなところかみんなで教わりました。でも、行つてみると私のイメージの四分の一しかあつていませんでした。

私は、学校のみんなとらくさいじょうかセンターに行きました。私の頭の中でのイメージは、大きなものからじゅんにざるのようなものでろかをする、というものでした。

ですが、行つてみると私のイメージの四分の一しかあつていませんでした。まず、スクリーンというてつごうしで大きいゴミを取り、最初ちんでんちに行きました。地面が茶色で、変なにおいもして、ゴキブリも1ぴきいたので、本当にこんなきたない水が、川に流せて、お魚も健康にすごせるようになるのかなと思いました。次に生物反応そうにいき、アメーバーなどのび生物がたくさん入った活性おでいをくわえました。それから、空気をふさきこんで、アメーバーなどのび生物がたくさんふえていつて、水はしだいにきれいになつていいくのが一番おもしろかったです。

最後に、最しゅうちんでんちで活性おでいをゆつくりしづめて、すつかりきれいになつたしより水の上ずみをしようどくして、ろかして、桂川に流します。

一番きょうみ深かったのは、び生物の説明です。アメーバーをしつていたので、アメーバーにがんばってほしいと心の中でエールを送りました。

おどろいたのは、その後です。みなさん、「あれ、しづんだ活性おでいはどうなるんだ？」

と思つた方もいるでしよう。実は、だつ水きにかけて水分をとつたのち、固形ねんりよう化せつやしそうきやくろでもやし、すみや灰にして、火力発電所のねんりようや、セメント原りようとしてさい利用するんですよ。はじめてこのしくみを聞いたとき、とてもエコだなと思いました。

私はじょう水場に行くまで水のむだづかいばかりしていました。手をあらうときせつけんを出しているのに水をとめない、トイレを流すとき1回以上レバーを引く、水を入れるとき入れすぎののみきれずすててしまふ：でもお話をきいて、自分がどれだけ水のむだづかいをしているのかがようやくわかりました。水をあまり大事だと考えていいなかつたので、水のためにがんばっている人たちを見ると、もうしわけなく思いました。これからは、水を大切にして、水と地球の未来を守つていきたいです。

くらしをささえる浄化センター

長岡市立長岡第六小学校

四年 堀尾 駿介

ぼくは四年のみんなと社会見学で洛西浄化センターへ行きました。最初はきたない水がどうやって美しくなるのだろうか、と思いました。

今から、きたない水が美しくなる仕組みを見ていきましょう。まず、ちゃんとさなをし、次にポンプ室で上まであげ、その次に最初ちゃんとさなをし、次にポンプ室で上まであげ、反のうそで生物に小さなごみを取りのぞいてもらいます。空気を入れることで生物が活発になるそうです。ぼくがびっくりしたことは、生き物がきれいにしてくれていることです。

その次に、最終ちゃんとさなをし、次にポンプ室で上まであげ、ぶ美しくなったけれど、まだ完全にきれいにはなっていません。次にえんそを入れて消さいたら急速ろかちできれいにし、かづら川に流します。最終の後にもまだきれいにするところがあつておどろきました。

取りのぞかれた活性おでいをだつ水機にかけ水分を取り、こ形ねん料化しせつやしそうきやくろでもやして炭や灰にし、火力発電所のねん料やセメントの原料としてさい利用します。おでいがごみにならずにねん料になることにすごいなと思いました。バックヤードに入れてもらつたときどれだけ下へ下がるんだろうと思いました。半分くらいくると急にくさくなつてきて鼻をつまなければたおれそうになるぐらいだったので、上にもどつたときは空気がおいしかつたです。でも、「今日はいつもよりくさかった。」

としようかいしてくれた方が言つたので、

「ぼくたち、運悪いやん!!」

と思いました。でもぼくたちは、ふつうのくささが分からなから、いつもよりくさくてもくさくなくても同じだと思いました。

それならここで働いている方は

「こういう所で毎日働いているのがすごいな。」と思いました。ぼくだったら一日でやめちやいます。なれてきたら三日ぐらいはいけそうですがそこで何年も働いている方たちに感しやです。もし、洛西浄化センターがなかつたら、水がじゅんかんされなくなつて、作物が育たなくなり、それを食べる人間と動物もいなくなつてしまします。水がなくなると魚もいなくなつて、じょう発する水がなくなると雨がふらなくなつて、木も生えなくなつて地球がめつぼうしてしまふかもれません。だから、浄化センターはこの地球になくてはならないものだと思いました。

また、食べ物だけでなく、トイレやお風呂、料理まで水を使うので、生活全部ができなくなります。浄化センターがなければトイレの水を流せないし、お風呂は入れないし、料理は食べられなくなります。だから浄化センターは生活面でもぼくたちのくらしをささえてくれているんだと思いました。

未来では浄化センターがいっぱいできて、水が美しくなり、自然がゆたかになつて生き物がふえるといいです。

二手に分かれた、水の先

長岡市立長岡第六小学校

四年

伊藤 実香

みなさんは、家や学校で使う、トイレや、お風呂で使った水がどこへ行くか、知っていますか？それは、洛西浄化センターでです。

では、洛西浄化センターに着くまで、どんなふうに、運ばれていくのでしょうか。まずは、よごれた水（使った水）を下水管へ流し、汚れたすなをしづめる、沈砂池に行き、脱臭機室でにおいを取ります。この脱臭機室は、「すごくくさいな」と思いました。次は、生物反応槽で、少し飛ばし 最終沈殿池では泥（活性汚泥）をしづめます。活性汚泥の中には、び生物が入っており、返送汚泥で汚泥を再利用するため、空気を入れることで、び生物が活性化します。このことを、活性汚泥と言います。そして 塩素を入れて 消毒します。急速濾過池を通つた後、桂川へ流します。さつきは、説明していませんでしたが、脱臭機室で、沈めますが、その時の、泥やごみをどうするか、を説明します。

引扳汚泥で、重力式汚泥濃縮タンクと、加圧浮上式汚泥濃縮タンクに、泥やごみを入れ、この機械は、泥の量を少なくする機械です。次に、1次汚泥消化タンク、その次に、2次汚泥消化タンクでは、さつきの、機械より泥の量を少なくしながら、メタンガスを作る機械です。次は、汚泥脱水機といい、泥の水分を取つて、最後の汚泥焼却炉です。ここでは、泥を燃やす場所で、次には、灰貯留ホッパーと言う所に送られ、最終的には、セメントの原料としてトラックに、運ばれます。以上、泥やごみを、どうするかの説明でした。

いつも働いている、洛西浄化センターですが、もし、この浄化センターがなかつたら、水のことで、大変な、人がいたでしょう。たとえば、お風呂に入れなかつたり、飲み物がなかつたり、人類がほろんでいたかもしません。なぜなら、汚い水がそのまま、川や海へ流されるのですから、魚が死んでしまい、魚が、食べれません。つまり、川だつたら、山や森に流れているので、植物も育たないので、食べ物がなくなってしまいます。このようなことに、ならないためにも、水を大切に扱うことが大切ですね。水を大切に、扱うことで、できることは、皿洗いのじや口を使わない時は、閉めることや、台所で、のこつた野菜や食用油をそのまま流すのではなく、着れなくなつた、服を手の半分くらいの大きさに切り、野菜や食用油を、ふいてから、お皿を洗う。という工夫があります。自分も、水を大切に扱うには、や、自分の身の周りで、できることを探そうと思いました。節約

美しい自然を守るために

## 長岡京市立長岡第六小学校

植四年  
仰

みなさんは、生活などで使った水がどこへ行くのか知っていますか。その水は、浄化センターに行くのです。

まず最初に沈砂地で砂を取りのぞきます。次に最初沈殿地でどろやごみをしづめます。その次に生物反応そうで大きくて一ミリメートルの微生物によごれを食べてもらいます。このとき、活動をうながすために空気を入れます。そのまた次に最終沈殿地で活性汚泥をしづめます。ラストパートは塩素で消毒し、急速ろ過地にかけて川に放流します。

沈砂地で見た時見たなかつた水が、順を追つていくうちにどんどんきれいになつていき、急速ろ過地では飲めるくらいきれいになつたので、この技術はすごいな」と思いました。浄化センターワークで働いておられる方がこう言いました。

「二十四時間三百六十五日、止めではならないものなのです。たしかにトイレに行かない日、ごはんを食べない日はあります。また、『私たちの乙訓』で流してはいけない物を流すと、魚が住めるようになるまでおふろの水が何はいも必要だということが分かりました。しかも生態系がこわれてしまします。イワナなどきれいな水に住む生き物が危ないので、まずカレーなどはしつかりと食べる!! 残った時もキツチンペーぱなどでふきとつてからあらうように気をつけます。

もし、この技術がなくなつたら、大変です。たちまち町は汚物であふれ、コレラなどが流行します。町に捨てられなくなると、川や海にも捨てことになるので川や海が汚れ、住んでいる生き

物が死んでしまいます。水産業が全滅し、食料ききにつながります。こう考えたらあらためて浄化センターは重要なあと思いました。

ぼくは遠い未来、どんなにきたない水でもものとてもきれいな水に浄化できるようになつてほしいなと思いました。そうしたらきれいな水を自然に返せるので、美しい自然を大切にできます。また、きれいな水に住む生き物のすみかをうばわざ、人間と共存できます。

しかし、ゴミやシンナーなど下水道を傷つけるものや、きれいな水にするのに時間がかかるものなど、流してはいけない物まで流す人が出てくると思います。美しい自然をたもつために、までは下水道を大切にしよう。そう思いました。

洛西浄化センターつてめつちやすごい

向日市立向陽小学校

岡 初華  
四年

5月22日に、社会見学に行つて洛西浄化センターに行つて、学びました。

じつは、洛西浄化センターつてすごい所があるのです。水道と下水道のちがいは、水道は、やくひんできれいにしていて下水道は、びせいぶつです。わたしは、このことを聞いたとき、すごく、びっくりしました。

しかも、洛西浄化センターは、公園、しばふがあつて、そのしばふや公園の下に、下水道がしよりされている場所なのです。つまりわたしたちが、ゆうこうりようしているのです。そのきたない水を川や海にながすと、大へんなことになります。なぜなら、川、海は、魚がいます。そしてそのきたない水を、川や海にながすと、魚がいなくなつて、わたしたちが魚をいただくことができなくなります。なのでダメですよ。だから下水道があるのです。なので下水道は、すごく、活やくしてますね。

下水道がつまると、ものすごく大変なことになります、しかも、あぶらなどながすと、ばくはつするので、ながさないでください。

下水道のれきしは、すごく今から、4000年前からあるのです。昔から、水をきれいにする仕方は同じなのです。

つぎは、びせいぶつの名前をしようかいしていきたいと思ひます。（カルケシウム、ボルテセラ、オペルクラリラ、トコフイリラ、コレッップスロタリア、アメーバー、カエトノーダト、マクロビオシス、がいます。）このような、びせいぶつが、水をきれいにしてくれているんです。なので、わたしたちが、水で、いろいろ使つていますよね。たとえば、のみ水、食器あらい、せんたくき、おふろ、手あらい、トイレ、いっぱいありますよね、この水は、全て、びせいぶつのおかげなのです。すごく、感じやし

ます。

思つたことを言ひます。

●下水道、つまり地下に行つたら、すごくくさかつたので、それだけきたないと言つことがわかりました。

●さつきも、書きましたが、下水道は、すごく活やくしていますね。下水道がなかつたら、川や海にながれますそしたら、水もながれてこないし、魚もしんでしまいますよね。なので、すごく下水道は、活やくしています。

●下水道がつまりると大へん、とさつき書きました。もうやばいことに・・・・・ばくはつしてしまいます。ぜつたいにダメです。もしばくはつしてしまつたら、きんじよの人にも、めいわくかかりますよね。

●マンホールが丸の理由三角形、四角形だとふたをあけると、中にふたが入つてしまふのです。なのでマンホールは、丸なのです。

●その洛西浄化センターの働いてる人たちがすごくいい言葉をくれました。それは、

「町をきれいにせいけつに!!」

と言う言葉を聞きました。

わたしは、それを聞いて、わたしもきそく正しい水の使い方をしなければならないですよね。そしてわたしも、

「町をきれいにせいけつに」の言葉を大切にしていきたいと思ひます。

洛西浄化センターで働いている人は、くさくても、じゅうみんのために、いろいろしてくれているので、すごく感しやしています。やっぱりわたしは、くさい所で仕事は、むりだと思つていました。けれど、ほんとうに、じゅうみんのために、働いてくれて、すごくうれしいです。わたしも、びせいぶつ、働いている人たちは、くろうして、仕事をしているんだなあと思いました。4000年前から、水をきれいにする仕方は、いつしょなのがすごくびっくりしました。

これから、

「町をきれいにせいけつに」を大切にしていきたいと思ひます。

洛西浄化センターに行つて

向日市立向陽小学校

四年

表 濑花

あぶらやたべものをながさない、などたいせつな水をむだにしないため、このけんがくでまんだことを、これから日じょうにいかそうと思いました。

わたしは、洛西浄化センターでこんなことを学びました。まず、よごれた水がどのようにきれいになるかを教えてもらいました。まず、ちんさちというばしょで水の中の大きなゴミや土砂をとりのぞきます。つぎに、はんのうタンクというばしょで水にび生物の入つた活性おでいをまぜて、空気を入れて、よごれをしずみやすくします。さいしゅうちんでんちというばしょで水とおでいにわけ、しょうどくをして、川や海に流します。このよこれをきれいにするばしょにじつさいに行くと、さいしょは、とてもにおいがすごくて、本当にこんな水がきれいになるのかなと思ひながらすすんでいきました。だんだんすすむたびに水がとうめいにちかづいて、においもなくなつていつて、さいごのばしょで水をすくつて見せてもらうと、においはまつたなく、とてもきれいな水ができるがつていきました。さいしょに見たとてもよござれていてにおいもすごい水とはぜんぜんちがいました。見たときともすごいなと思いました。浄化センターにはまいにち一億トンごえのよごれた水がながれてくるそうです。それをこんなきれいにぜんぶできるなんて、びせいぶつも、はたらいいる人も、とてもすごいと思いました。

地球上に、人がのんだり、つかつたりできる水のわりあいは、わずか3%しかないです。キツチンからあぶらを少しがすだけで、そのあぶらが入つた水をきれいにするにはすごくたくさん水がいるので水がたくさんむだになつてしまします。水は地にわざかしない大切なしげんです。だからこそ、キツチンで地